第１回柏・我孫子・鎌ケ谷地区地域協議会　記録

１　日　　時　　令和５年１月６日（金）　午後２時から４時まで
２　場　　所　　さわやかちば県民プラザ　会議室１
３　出 席 者　　１３名／１５名
４　概　　要

（１）座長の選出

座長に渡部委員を選出

（２）地域協議会設置の趣旨

地域協議会設置の趣旨について事務局より説明

（３）「県立高校改革推進プラン」及び「第１次実施プログラム」について

資料３「県立高校改革推進プラン及び第１次実施プログラムについて」に基づき、同プラン及び同プログラムの内容について事務局より説明

【 座　長 】

事務局からの「プラン」及び「プログラム」の説明について、質問や意見をお願いしたい。

【 委　員 】

よく考えられて作られている。通信制高校に対するハードルが下がっている。ここ３年間で、コロナの影響も含めて急激に変化している。

《 事務局 》

これまで通信制高校は全日制の中退者のやり直しの場であったが、中学校卒業者がダイレクトで通信制高校に進学し、自分の興味関心のあることを学ぶという流れになってきている。私立の通信制高校だけは、生徒数が右肩上がりで伸びている。一方で、県立の通信制高校としては千葉大宮高校があるが、かつては生徒が二千人ほどいたが、現在は千人ほどである。通信制高校では、スクーリングを年間 20 回程度実施しているので、通学の利便性を考えて、通信制協力校を設置してきた。第１次実施プログラムでは、銚子商業高校に設置することとした。前プランにおいては、通信制協力校を館山総合高校に設置し、卒業生を３回出している。経済的に厳しい生徒は私立の通信制高校に行くことが難しいので、公的な立場でサポートしている。

【 委　員 】

資料によると、中学校卒業者数が 10 年後にはおよそ 6,200 名減少する。広域通信制高校は、私立高校協会でも問題としている。野球やゴルフなどスポーツの分野で通信制高校が躍進しており、年々千人単位で増加している。ところで、プランとプログラムの位置づけとしては、どのようになっているのか。例えば、プランでは総合学科を５校設置するとなっているが、これは決まっていることなのか。

《 事務局 》

プランはビジョンであり、今後 10 年間の目標である。プランで示した目標については、プログラムで検討していくことになり、状況に応じて策定していく。プログラムで書いたことは、きちんと実施していくことになる。

【 委　員 】

「第１次実施プログラム」では、鎌ヶ谷西高校に保育基礎コースを設置することとしているが、これは決定ということでよいのか。

《 事務局 》

そうである。

【 委　員 】

プランでは、統合を10組程度見込んでいるとあるが、この数字が一つの枠になるのか。

《 事務局 》

前プランでは、５組程度と示したが、実際は３校統合も含め３組４校減であった。今回、10組程度と示したが、10 組となるかは今後の状況による。中学校卒業者数の減少に対し、各校の募集定員を減少することで吸収できない場合は、統合というスキームを使っていかなければならない。

これまでに郡部の高校を統合してきたので、郡部では学校数は減少し、点在している状況である。都市部においては、普通科が多いという状況である。流山市などは人口が流入しており、中学校卒業者数が増加していくと予想している。

（４）柏・我孫子・鎌ケ谷地区の現状と課題

資料４「柏・我孫子・鎌ケ谷地区地域協議会　基礎資料」に基づき、柏・我孫子・鎌ケ谷地区の現状と課題について事務局より説明

【 委　員 】

鎌ヶ谷高校では、借用地が多いようであるが、今後、県が買い取る予定などはあるのか。

《 事務局 》

地権者とは、長期にわたって、借用することとなっていると思われるので、状況が変わらない限り急に買い取りとはならないと考える。

《 事務局 》

補足であるが、第３学区では、中学校卒業者数が今後 10 年間で 500 名程度の減少で留まっている。しかし、圧倒的に生徒数が多い第２学区では、千人以上の減少が見込まれているので、生徒の流入が多い第３学区においても、流入してくる生徒数は減少していくことが見込まれる。また、第４学区においては、７、８百名の減少が見込まれている。つまり、隣接する学区の中学校卒業者数の減少も第３学区に関係してくることになる。

【 委　員 】

私立の入学者の数字は、県内の私立高校への入学者ということか。県外の私立高校への入学者については、県外への進学の数値に含まれるのか。

《 事務局 》

そうである。

【 委　員 】

これまで東葛飾高校に医歯薬コースや、鎌ヶ谷西高校に保育基礎コースなど特定の進路に対するコースを設置することで高校の魅力づくりを進めてきたようであるが、結果はどうだったのか。我孫子高校への教員基礎コースの設置など、教員になるには、どのような学部に進んでも教員免許を取得できるので、数字を追いきれない場合もあると思うがどうか。

《 事務局 》

再編校に対して、最初の卒業生が出る時に、評価を行っているが、東葛飾高校の場合、医師などになるには６年以上かかるので、今後、調査結果を示していくことになる。教員基礎コースにおいては、昨年度、コースを修了した生徒が初めて大学を卒業し、８名が正式採用された。

【 座　長 】

次回、東葛飾高校医歯薬コースの進路実績を提供していただけるか。

《 事務局 》

承知した。次回、用意する。

【 委　員 】

通信制高校のトレンドについて、情報を提供してもらいたいがどうか。

《 事務局 》

承知した。次回、用意する。

第２回柏・我孫子・鎌ケ谷地区地域協議会　記録

１　日　　時　　令和５年２月１０日（金）　午後１時３０分から３時３０分まで
２　場　　所　　東葛テクノプラザ　第１研修室
３　出 席 者　　１５名／１５名
４　概　　要

（１）第１回柏・我孫子・鎌ケ谷地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

（２）「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について

資料１「県立学校改革推進プラン再編対象校に係る成果と課題について」に基づき、事務局より説明

（３）公立中学校卒業者の状況について

参考「公立中学校卒業者の状況」に基づき、通信制高校への進学状況について事務局より説明

（４）東葛飾高校医歯薬コースの進路状況について

参考「東葛飾高校学校案内」に基づき、過去３年間の医療系大学への進路実績について事務局より説明

【 委　員 】

東葛飾高校の医歯薬コースについて、成果はどうか。

《 事務局 》

参考のとおりである。高校時代にモチベーションを高められるなど、手応えは感じている。

【 委　員 】

医歯薬コース設置に関して、柏市医師会の全面的な協力があった。コースの在り方として、医学部、薬学部に進学させればよいというわけではなく、医者として生命倫理を含めて、地域で未来の医者を育てていくものであるという印象を強く受けた。

【 委　員 】

希望者が 40 名となっているが、コースに入るための選抜があるのか。

《 事務局 》

選抜はない。最大人数が 40 名となる。年度によって希望者の人数に幅はある。

【 委　員 】

ありがたいことに、柏市の医師会からは様々なバックアップがあり、コースが成り立っている。

【 委　員 】

医歯薬コースだと予備校のようにならないか。

《 事務局 》

先ほどの成果と課題でもあったが、入学した生徒の保護者の中には、予備校と同じような受験テクニックが学べるコースであると思われる保護者もいる。勉強のテクニックを磨くのではなく、心を磨いて医歯薬へのモチベーションを高めるコースである。受験勉強も必要であるので、カリキュラム内で実施するのではなく、時間割に外付けして、プラスアルファでコースの取組を実施している。

【 委　員 】

承知した。

（５）柏・我孫子・鎌ケ谷地区の県立高校の在り方について

【 座　長 】

「普通科及び普通系専門学科・コース」、「職業系専門学科・コース」、「総合学科」、「社会のニーズに対応した教育」について、質問や意見をお願いしたい。

①「普通科及び普通系専門学科・コース」、「職業系専門学科・コース」について

《 事務局 》

柏・我孫子・鎌ケ谷地区に設置した学科・コースについて、この地区の県立高等学校についてよくご存じの委員から各委員に説明してもらい、補足があれば事務局からお願いしたいと考えるが、どうか。

【 委　員 】

柏高校の理数科では、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、５年を１つの期間として、３回繰り返し、計15年間、探究の学びを行ってきた。我孫子高校の教員基礎コースについては、設置してから間もないことから大学の卒業生は出ていない。鎌ヶ谷西高校の保育基礎コースについては、学校独自に取り組んでいた素地があったところに県教育委員会がお墨付きを与えて令和６年度設置することとした。東葛飾高校の医歯薬コースについては、先ほど報告のところで触れた。我孫子東高校については、生徒募集が厳しい学校の中では比較的倍率が出ている学校であり、福祉コースを設置した。単純に普通科だけで生徒が集まってくれる状況ではないので、各校が知恵を絞るとともに、県教育委員会と相談しながら特色を出してニーズに応えるため、学びの機会を提供している。

【 委　員 】

生徒のニーズに対応し、特徴がある学校はよい。

【 委　員 】

経営者の立場からすると、地元・地域で応援し、人材を育てていきたいという思いがあるので、学校だけに任せるのではなく、地域を使ってもらえたら、学校にとってプラスになると思う。

《 事務局 》

柏・我孫子・鎌ケ谷地区は、柏高校の理数科と柏の葉高校の情報理数科以外は普通科であり、その中で特色としてコースを設置してきた。今後、プログラムの策定に向けて、この地域に合う専門学科、コース、学び、ニーズなど意見を伺いたい。

【 委　員 】

我孫子市においては、我孫子高校に教員基礎コースが設置されており、地元の小学校で生徒の実習を受け入れている。我孫子市では今年度からすべての小・中学校をコミュニティスクールとし、地域とともに歩む学校を意識していくこととしたことから、地元の高校や大学との連携を意識していきたい。これまで教員基礎コースの選択者は、地元のボランティアや行事に参加していただいているが、教員不足という課題もあり、教員基礎コースの魅力発信のため、今後も協力していきたい。社会で必要とされる人材として、福祉、看護などの分野においても学科やコースが必要であると思う。教員基礎コースの選択者は小・中学生と年齢も近いということもあり、今後もWin-Winの関係であるとよい。

【 委　員 】

鎌ケ谷市においては、鎌ヶ谷高校と鎌ヶ谷西高校があり、鎌ヶ谷西高校では、地元の小・中学校、高校においてクリスマスコンサートを開催し、小・中学生が間近で高校生の様子を見ることができていたので、子どもたちが高校生になると将来こういう経験ができるんだと思ってくれる機会になっていたと思う。また、チャリティーとして、各校の児童会・生徒会役員が不要な服を持ち寄り、バザーを開催していた。また、鎌ヶ谷高校では夏休みのボランティアで小学校において国語や算数の学習アドバイザーを引き受けてもらっており、交流ができていた。令和６年度から鎌ヶ谷西高校に保育基礎コースが設置されると、さらに保育園との交流が生まれてくるようになり、良いと思っている。地元の中学校の校長から話を聞くと、普通科の中で保育や福祉の資格が取れると良いという意見が出てくる。先ほど事務局からの報告で東葛飾高校の医歯薬コースでは１時間外付けの特別なカリキュラムであることが分かった。そこで、質問であるが、コース設置の場合については、一般的に外付けで実施されるのか。

《 事務局 》

高校のシステムについて、皆様、普段触れていないので分かりにくいところがあると思うので、説明すると、まず、普通科以外に、理数科、工業科、商業科などの専門学科があり、その専門学科においては、その専門の学びに関する単位を、３年間で 25 単位以上取得しなければならない。一方、コースにおいては、何単位実施するなど一切縛りがない。自分の夢に向けてそのコースの学びを生かすということであれば、それで、ある意味成功なわけである。福祉においては、旧ヘルパー２級の資格である介護職員初任者研修修了者資格を取得できる。コースを選択した生徒には 100％資格を取得させようということで、実際ほぼ 100％取得できている。そのためには、３年間で 10 単位程度必要である。松戸向陽高校の福祉教養科ではさらに高度な資格である介護福祉士の合格が 100％達成した。福祉は、実は資格と直結しており、そのために資格取得のため、ある程度学ばなければならない。教員などは高校で資格が取得できないので、これらのコースにおいては、心を磨く取組をしている。上級学校に入学できるよう普通科の学びも疎かにせず、外付けのカリキュラムが多くなっているという事情がある。

【 委　員 】

布佐中学校は我孫子東高校に近接しており、コロナの影響で直接的な交流は止まっているが、以前は他の小学校と本校が我孫子東高校と交流を実施していたと聞いている。また、地元ではお祭りに神輿の担ぎ手として高校生に入ってもらっていたとも聞いている。我孫子東高校は地元なので、進学する生徒が多数いるが、本校の３年生を対象に一人ずつ進路の面接をした際には、我孫子東高校の福祉コースで学びたいという生徒がいた。我孫子東高校で資格を取得できるということも志望理由としてあると思うが、中学のうちに目標が明確にある生徒にとっては、福祉コースなどにおいて資格が取得できるというのは、とても良いことではないかなと思う。また、我孫子高校の教員基礎コースについては、私も興味があるが、教員基礎コースの選択者数などはどうなのか。また、今後、その選択者たちが実際にどのぐらい教員になるのか、追跡調査を実施し、現状を把握していくことが必要であると思う。そして、一人でも多く教員になってほしいと強く思う。普通科の中にコースを設置し取り組んでいるのでたくさんの時間は取れないと思うが、うまく実習を３年間の中で組み込み、コースで学ぶ子どもの意欲が高まるようなコースの内容になったら良いと思う。保育コースでもそうだと思うが、コースで学んだ楽しい経験によりコース選択生徒の意欲が高まると思う。これは要望であるが、我孫子高校での１年１クールについては、３年間で計画的に調整していってほしい。

《 事務局 》

我孫子高校の教員基礎コースにおいては、まだ大学の卒業生を出していないので、今後実施する追跡調査により確認していきたい。我孫子高校の教員基礎コースのやり方が、他の教員基礎コースと違う部分は、できるだけ多くの生徒に学ばせたいという思いから毎年コースを選べるようにしている。３年間継続して学ばせようとすると、選択者数が 20 人から 30 人が限界になってしまう。それに対して、毎年選べるようにしている我孫子高校では、裾野が広がるという点で、とても大きなメリットがある。ただ、３年間、別々の教育課程を作るのは、なかなか教員も厳しいところがあり、似通ったことを毎回繰り返すという現状がある。一長一短はあるが、毎年選択する生徒にとってみても、小学生などは毎年変わるし、連続して学ぶ生徒はそれだけやる気があるので、繰り返し学んでいけるという利点はある。したがって、県教育委員会から高校に対してこうしてほしいというものはなく、高校にとってベストな方法を取ってほしいとお願いしている。

【 座　長 】

専門学科について、柏の葉高校についてはどうか。

【 委　員 】

つくばエクスプレス開業により柏の葉地域は発展していった。調整区域に立っている高校は多いが、

市街化区域にあるのは鎌ヶ谷、柏の葉、東葛飾くらいであると思うが、生徒が集まりやすい要因になっているのではないか。東京大学大学院や千葉大学の農場などが集積している。情報理数科においては、社会での IT へのニーズが高まり今後も人材育成が必要な分野であると思う。

【 委　員 】

柏の葉地域の特色が柏の葉高校に出ている。街づくりと高校の在り方については、関連があると感じており、街が発展していき、そのイメージが子どもの進路選択にとっては、影響が大きいのではないか。

【 委　員 】

鎌ヶ谷高校は市街化区域にあり、鎌ヶ谷西高校は市街化調整区域に入る境に位置するが、将来的には、北千葉道路と呼ばれる成田から首都圏を結ぶ大きな幹線道路が通ることになっており、そこに接続する形で、都市計画道路のすぐ脇に鎌ケ谷西高校は立地している。今、通学においては、生徒の皆さんは、田舎の道を通っているが、将来的にはそういう幹線道路沿いになっていくので、大きく街の変貌が遂げた時に、高校のあり方や高校の位置付けなどが変わってくると考えている。これは鎌ヶ谷西高校の利点であり、将来の都市計画を一つ指針として、高校や進路を選択するというところも意味があるとは思う。質問であるが、コースについて、普通科の生徒が、教育課程の一部の時間を使って、選択した分野の科目を学んでいくのか。

《 事務局 》

そうである。コースについては、普通科のその学校に入ってきた生徒が希望に応じて取ればいいということになる。その取り方も、先ほど申し上げたように、選択で取りたい生徒は選択して、その授業数も、普通科の学びをしっかりと行った上で、興味関心のある子は、該当するコースをプラスアルファで選択する。しかし、福祉コースだけは、資格を取得する関係で、教育課程にも入れ込んで学ばせている部分があるというイメージである。

【 委　員 】

今、職場では大卒出身の職員を採用することが多いが、土木や保育の分野において、地元の高校の卒業者を、地元を支える担い手として採用していけると良いと期待している。

【 委　員 】

生徒が集まりやすい要因については、我孫子市は交通の利便性と相関があり、市域の東西で違いがあると感じる。だからこそ、「県立高校改革推進プラン」での計画の趣旨において、「県立学校における地域の活性化への貢献」が位置付けられているように、手賀沼がある街という特徴のある環境を生かし、観光や農業、ビジネスなどの地域資源を材料として教育に生かすコースも考えられる。そして、そのことは将来の地元地域の担い手、人材づくりに生かされると考えている。

【 委　員 】

災害時ボランティアセンターの立ち上げ訓練に、鎌ヶ谷高校、鎌ヶ谷西高校の生徒が参加している。要援助者を助ける担い手が高齢化していることから、機動力のある高校性の若い力が必要である。高校生が地域の活動に参加してもらい、地域に貢献していくような学校づくりをしてもらえるとよい。

【 委　員 】

都市計画部門で仕事をして思うことは、都市環境や景観に興味をもつ生徒が、理工系の進路に進む前に、高校において、街づくり、環境、景観などの分野について学べるとよい。

【 委　員 】

地域ごとに街の雰囲気があると思う。それぞれの地域でそれぞれの地域の方々とのつながりをもって、それが特色につながっていけば面白いと思うので、普通科において、地域の特色や魅力を出していけるとよい。また、質問であるが、文系進学や理系進学クラスなどはあるのか。

《 事務局 》

時代の流れとして、文理融合の傾向がある。理系だからこそ文系的な素養も必要であったり、文系だからといって理系を疎かにしてはいけないという部分もあることから、文系・理系を分ける学校が減ってきている。

【 委　員 】

農業振興や地元の農業者を支える高校が市内にあるとよい。以前は、茨城県に農業科がある高校がたくさんあったが、今はどうか分からないが、農家の子弟が継がないという現状であり、ニーズがない。当社は我孫子市の指定管理を受けている中で、地元の従業員を７割雇用している。やはり地元の学校で学んで、将来的には都内の方の大学に進学することはあっても、地元に最終的には戻って、地元のために働きたいとか、地元に貢献したいという愛郷心のようなものを公立高校で培ってもらえると嬉しい。

【 委　員 】

中学校から目標がある場合には専門学科を選ぶことになるのであろうから、積極的に専門学科やコースを設置してほしい。しかし、目標が漠然としている場合はどうかとも思う。吹奏楽であれば市立柏高校や女子であれば制服が可愛い高校などを選ぶ傾向もある。例えば、音楽・美術系のコースは東葛飾地区にはないので、取手の私立高校に行ってしまう場合もあると思う。質問であるが、教員基礎コースにおいて、教員が外部講師との連絡調整を行うとのことであるが、保育基礎コースなどにおいては、外部講師はどうしているのか。

《 事務局 》

我孫子高校は、設置当初の校長が熱心で、学校だけでやるのではなく、教員養成系の大学に声をかけて、その先生に高校に来てもらい、教えてもらおうという方針で、数多くの大学と連携協定を締結した。コロナ前は年に１回、さわやかちば県民プラザで、教員養成系の大学の先生方を集めて、２泊３日で合宿をしていた。現在は、通いの形式にして実施している。我孫子高校の教員は何をするかというとコーディネーターの役割を担っている。そして、保育コースにおいては、短大などから先生を招き出前講座を開く。コロナ前では保育園・幼稚園において実習を行っていた。生徒が学校に閉じこもるのではなく、外部の方の力を借りて、外部に出ていって、学びを深めるという形で、現在取り組んでいる。

【 委　員 】

私学は、大学進学を大前提にしており、職業直結の学びは少ないが、皆さんが言うように。子どもたちには、様々な世界を見せることが必要である。教室にとどまらない、教科書の中に閉じこもらないという取組は増えている。子どもたちは街の宝なので、みんなで見ることで、子どもたちの力になるのではないか。話は変わるが、基礎資料を見ると、就職する生徒たちが数多くいることが分かる。高卒で就職する生徒たちへのケアはどうしているのか。地区の持ち回りで進路協議会の担当校になったとき、高校生と会社をめぐる問題として、例えば、繁忙期に内定後、研修と称して借り出されることが議題になった。

【 委　員 】

公立高校には、上級学校に進学する生徒もいれば、卒業してすぐに就職する生徒もおり、様々である。本校でも半数ほどが就職していくが、進路指導部では、入学時から３年間かけて社会で通用する力を育てていくカリキュラムを組んでいる。全般的な傾向として、中学から高校に上がっていく段階で、自分の将来について決まっている生徒があまりいないと思うのであるが、途中で生徒の希望や考えも変わることから、魅力あるコースによって様々なニーズに対応できるとよいと感じている。一方、東葛飾中学校においては、高校受験がなく、普通の中学生と違った形で、探究的な学びなど、様々な取組ができている。

《 事務局 》

プランP.5では、公立高校卒業後の進路状況として、就職者が県全体で16.6%となっている。就職者の割合が50%の学校もある中で、たいへん少ない数字であるが、最新のデータによればもっと下がっているのではないか。高卒の生徒に対して、企業にとってニーズが高い傾向があるが、現状は生徒・保護者の意向は、大学・専門学校も数多く設置され、なおかつ、少子化で入りやすくなっている上に、貧富の差により、学校選択に影響が出てはいけないということで奨学金が充実してきている状況の中で、すぐ就職せず、専門学校や大学に進む生徒が随分増加している。かつて中卒が金の卵と言われた時代があったが、これからは高卒が金の卵と言われる時代が来るのではないか。そういう中で就職せず、大学、専門学校に進学する生徒も、その先には就職のことを考えていることになるが、大学を選ぶ際に、高校を選ぶようにみんなが普通科に行くから普通科に行くというようになってしまわないように、生徒の将来の夢、目標などの思いの部分をしっかりと作っていくことが大事である。

【 委　員 】

高校改革においては多様なニーズに応えていくことで進められてきた。子どもたちが中学から高校に上がるとき、自分の将来への方向性をどれだけ持っているかっていうところもあるが、その小さな思いを、高校に上がったときに、より大きくできるかどうかということが、専門学科やコースが関係してくるのではないかと感じている。資格が取れるコースは中学生にアピールしていき、中高連携や地域を絡めた育て方が望まれる。通信制への進学者が増加している点も踏まえ、各コースの中でも中学校と高校が連携しながら、何をアピールしていくのかが大切になってくる。

②「総合学科」、「社会のニーズに対応した教育」について

《 事務局 》

総合学科については、普通科と専門学科に続く、第三の学科として生まれた訳であるが、普通科に行く生徒が多い中で、普通科に多様な生徒が進学することになり、実際、先ほども委員からあったように半分ぐらい就職するような学校もある中で、そうした子どもたちに社会に出るにあたって何の専門的な知識をつけないまま、普通科を卒業して、すぐ社会に出て、早期に離職してしまうこともある。こうしたことを踏まえ、総合学科では、社会に出るにあたって必要なことを身に付けさせるが、入学するときは普通科と同じようであり、１年次に「産業社会と人間」という科目で職業教育や将来の進路について考えさせる。２年次からコースと呼ばず「系列」というものを選択し、自身の興味関心や進路に合った学びをしていく。要は普通科と専門学科の中間的な学科として設置されるということで、千葉県の方では今６校あり、近隣であれば小金高校においては、進学を目指す生徒が多いので、進学重視の総合学科として設置したが、生徒募集において、かなりの倍率が出ているような状況である。

【 委　員 】

教育現場の人間ではないので、よく分からないが、これまでの話によれば、コース設置について、どのようにして学校に来てもらうかという印象を受ける。昭和以降、戦後のことを振り返ると最初は大学さえ出ていれば、良い企業に就職できるというような社会構造であったと思うが、今はそれがかなり崩れているように思う。それは、社会が非常に複雑になって、本当に高い専門性が必要とされる社会になっており、単純に高校から大学に行けば、必ず就職し、人生が成功するというような流れにはなってきてないような感じであると思う。きちんと自分はどういう特徴や特性があって、何ができるかということを全部自分の中で理解をして、それでそのコースを選択した結果、こういう仕事についていくことの方が、本来の教育に求められるのではないかということをこれまでの話を聞いて感じた。今後も生徒のニーズに応え、学びを後押しする高校であってほしい。

【 委　員 】

様々な高校を訪問する機会があるが、校舎に入った瞬間に学校の雰囲気が伝わってくる。例えば、挨拶ができる生徒が多い学校とそうでない学校がある。コース設置など計画の策定とともに、総合学科での取組のように、人間教育もしっかりと行っていってほしい。

【 委　員 】

県立高校においては、昨今２次募集を実施する高校が増えてきている。私立高校などは色を出しやすい。公立の各校に入学するとこういうこと学びができ、このような生徒を育てるということや、様々な公立の普通科高校が頑張って理解してもらおうとしているところだと思う。

【 委　員 】

不登校の子どもたちが現在、25 万人くらいいる。また、親など家族の面倒を見なければならない子どもたちをヤングケアラーといって、社会的に問題になっている。不登校やヤングケアラーなどへの対応はどうか。

《 事務局 》

ヤングケアラーについては、児童生徒安全課が所管しており、議会等でも課題として取り上げられているが、それを一番発見しやすいのは学校であろうということで、今、そういった子どもたちが自校にいないのかというところの課題意識を持ちながら、児童生徒を把握することから始めている。そして、ヤングケアラーのための学校の設置は難しいであろう。不登校生徒の高校の受け入れについては、三部制定時制高校において、午前部、午後部、夜間部と三部に分かれており、本人が頑張れば、通常、定時制においては４年で卒業であるが、他部履修といって、午後部の生徒が午前部の科目を履修したりしながら３年でも卒業できるような体制を作っている。千葉市の生浜、松戸市の松戸南、佐倉市の佐倉南で 3 校に設置している。また、通信制については私学の方で増加しており、私学の通信制に行く生徒が増えているが、本当に家庭が経済的に厳しい生徒に対しては、公的機関として何とかしなければならないという状況である。千葉大宮高校は千葉市の交通が不便なところに所在している。通信制高校は、全く学校に行かなくていい高校ではないので、前期後期で 10 日ずつぐらいスクーリングとして学校に行かなければならない。生徒のスクーリングの利便性を考え、通信制協力校として、館山総合高校の海洋校舎に設置している。今回、第１次実施プログラムにおいて、銚子商業高校にも設置することとした。さらに、地域連携アクティブスクールにおいて、不登校の生徒は、中学校で勉強できていないので、学び直しの英数国の授業を手厚く実施したり、教育相談を充実させている。小中学校においては、不登校特例校の設置について検討が進められている。

第３回柏・我孫子・鎌ケ谷地区地域協議会　記録

１　日　　時　　令和５年３月１７日（金）　午後１時３０分から３時３０分まで
２　場　　所　　ザ・クレストホテル柏　カトレヤルーム
３　出 席 者　　１１名／１５名
４　概　　要

（１）第２回柏・我孫子・鎌ケ谷地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

（２）柏・我孫子・鎌ケ谷地区の県立高校の適正規模・適正配置について

①　望ましい学校規模について

資料１に基づき、事務局より説明

【 座　長 】

「望ましい学校規模について」、質問や意見をお願いしたい。

【 委　員 】

募集定員に至らない学校について、受検生から選ばれない理由についてはどうか。

《 事務局 》

選ばれない理由を説明するのは難しい。子どもたちは規模の大きい学校を選ぶ傾向があり、高倍率になる。逆に選ばれる理由として、駅から近いなど交通の利便性があり。低倍率の学校は拍車をかけて生徒が減少していく。その結果、高倍率の学校との二極化が進んでしまう。

【 委　員 】

倍率の問題が顕著になってきたのはここ２、３年である。３、４年前に私立高校への就学支援金が拡充し、次の年に入試を一本化した。また、私立と公立の両方を受検した場合、私学を受けた生徒はチャレンジで公立のトップ校を受検する。一方、学力が低い生徒については、安全に私立しか受けない傾向がある。本校のようにセーフティーネット的な高校では様々な困難を抱える生徒が入ってくる。広報として、ＳＮＳ、インスタグラムを通じて情報発信しているが、倍率に結びつかない。これまでの地域協議会の中で説明があったが、通信制への進学率が 3.8%に上昇し、新しい潮流がある。また、私立高校は歩留まりを考慮して合格者数を設定している。そして、最近では、歩留まり以上に入学している。小規模校のメリットは手厚い指導ができることであり、課題としては学校に活気がなくなることである。

【 委　員 】

今の委員の説明は一部正しいが、一部そうとは言えない部分がある。入学者選抜が一本化されてから倍率が割れているのは、私立に先に受かったから、とだけとは言えない。公立と私立の両方が受かった場合、生徒は受かった方に行けばよいという仕組みになっており、どうしても公立に入学したい生徒は公立を受けるはずであるからである。私立が先に受かったから公立は受けるのを止める、というのはただ単に先に受かったから、ということではなく、公立よりも私立の方が良いと考えた結果としてそういう選択をしたのだと言えるのではないか。また、これまで一部の学校においては、歩留まりを見誤ったとして定員を大きく超える入学生を入学させている学校があったが、そのような学校は県の補助金をカットされたりしており、千葉県私立中高協会としても、定員を遵守してもらうように指導してきたところ、今回は守ってくれるようになった。単に私立が先だから、というのは、受検生のチョイスとしては違うのではないか。

【 委　員 】

歩留まりとは何か。

【 委　員 】

公立より先に私立の入試があるので、私立としては定員より多い合格者を出す必要がある。その場合、例えば、歩留まりが40%とすると、100人入学してもらうには、250人くらい合格させなければならない。この差を歩留まりと言っている。歩留まりは予測するしかないので、それを30%と予測すれば約300人の合格を出すし、50%と予測すれば200人の合格者を出すということになる。もし、30%と予測して、実際には50%だとしたら入学者は150人となり、50人の定員超過となる。

【 委　員 】

自分の子どもの時は公立の入学者選抜は２回であった。今の受検生の保護者から意見を聞いたところ、２回の時の２回目では遅く、２回の時の１回目の時期に公立の入学者選抜があるとよい。また、子どもが二人いる場合、二人とも私立に行かせるのは、家計的にきつい。例えば、併願で私立に受かっていると、公立の２次募集は受けられず、私立に行かなくてはならない状況があるので、何とかならないか。

【 委　員 】

中学校の進路指導は最近変化してきた。これまでは、先生の方でこのような学校がありますよ、という指導であったが、生徒に自分で調べてくるように指導するようになった。そこで、生徒は塾の先生の意見を重視するようになった。さらに、私立の就学支援が拡充し、公立との差がなくなってきた。

《 事務局 》

２次募集を受検できない問題については、併願で私立に合格したのだから、私立に行かなくてはならないというように教育的に指導しているのではないか。私立への就学支援金について、年収の目安が590万円未満の世帯に対して月に9,900円から最大で33,000円になり、寄付金と施設費分を納入することくらいの違いになった。そして、コロナ禍があり、早く決めたいという心理が働いた結果ではないか。

【 委　員 】

資料により公立の倍率は理解できたが、私立についてはどうか。

【 委　員 】

県内に私立高校全日制が56校、通信制が10校あるが、４割は定員割れをしている。その一方で、定員を超過している高校もある。千葉県私立中高協会と県教育委員会が収容人数について議論する場があるが、そこで毎年、私立と公立の割合を決めている。郡部の海に近い方や南の方は募集に苦慮している高校もある。

【 委　員 】

東葛地区の私立の募集人員はどうか。

【 委　員 】

松戸も入れて10校あり、４クラス規模から10クラス規模のところまである。中学校から高校に何人上がるかで高校で何人募集するか決まるので、学校によって開きがある。6～10クラスの範囲になるのではないか。

【 委　員 】

鎌ケ谷市は市立高校がなく、中学校で子どもの数が減少したら教員が減ってしまう。高校が存在する分だけ教員が必要になる。松戸南高校などはニーズがあり倍率が高い。きめ細かい教育により、教員も必要である。公立の小中学校では、正規の教員が不足している。高校で教員がいらないのであれば小中に回してほしいくらいである。私立の通信制高校のニーズが高いが、公立においてもニーズに合った教育として、普通科に通信制を併設するなど、特に鎌ヶ谷西高校付近には将来、北千葉道路に接続する幹線道路が開通し、利便性が高まるので、どうか。

【 委　員 】

鎌ヶ谷西高校には将来、北千葉道路が開通することから利便性が改善することが見込まれる。市の都市計画の部署では、ハザードマップを作成するが、公立学校が避難所になっており、地域の防災上の役割を担っている。

【 委　員 】

今の学校の形で苦しい生徒が不登校になっている。様々な困難を抱え教室に入れないので、ある程度の規模の適正化を図り、様々な困難を抱えている生徒を受け入れられる学校の形を作っていかなくてはならない。地域に愛される学校づくり、地域を愛する生徒の育成を図ることが大切である。

《 事務局 》

様々な困難を抱えている生徒への対応として、地域連携アクティブスクールを東葛飾地区では流山北高校に設置しており、県内４校において、学び直しや実践的なキャリア教育を推進している。そして、第１次実施プログラムにおいて、令和６年度に行徳高校と市原高校に設置することとした。また、多様なニーズに対応するため、三部制定時制高校を松戸南高校、生浜高校、佐倉南高校に設置している。

【 委　員 】

入学者が減少すると、何をやるにしても負担が大きくなる。劇をやるにしても、見ている保護者の方が生徒よりも多い状況が生じたり、委員会活動においては、生徒一人が何役も引き受けなくては委員会活動が成り立たなくなったりする。掃除当番も同様である。できるなら１学年 10 クラスくらいあってもよいと思う。

【 委　員 】

１学級の人数は、40 人であるが、地域のトップ校では、生徒が自立しているので、48 人学級でもよい。教育困難校においてはそうはいかない状況であるが、標準法により、１学級当たりの人数は東葛飾高校と同様に 40 人である。

【 座　長 】

欠席者の意見を紹介してほしい。

※欠席者の意見

文科省のワーキンググループの参考資料に小規模校のメリットと課題を示したものがあり、論点が整理されており参考になった。成人年齢引き下げにより高校在学中に成人になることから、多様な人間と切磋琢磨していく必要があると感じた。また、本校は小規模校のため、生徒が高校に進学して多様な人間関係を作ることができるか心配になる生徒がいるが、高校に行って少しずつ成長していけるとよい。

１学級 40 人というのを変えることは難しいのかもしれないが、鎌ヶ谷西高校、沼南高校、沼

南高柳高校、我孫子東高校は、できれば１学級の人数が 30 人～35 人くらいが良いのではないかと思う。本校から上記の学校を受検する生徒は、学力があまり高くなく、一人一人丁寧に見てあげる必要のある生徒が多い傾向にある。本来、高校生になったら自立して、学習や自分自身のことをできるようにならなくてはいけないと思うが、これらの高校の生徒は、丁寧に支援していかないと難しいのではないかと想像している。我孫子東高校は、先生方がとても丁寧に授業をしているのを見せていただいたことがある。３年間、高校で学ぶ中で生徒たちが自信を持ち、卒業してから社会とつながって生きていくためには、１学級の生徒数を少なくする環境ができたらよいとも思う。学級数については、どのくらいが適正かよくわからないが、最低でも１学年４学級はないと活気がなくなるのではないかと考える。

《 事務局 》

最近統合した上総高校では、部活動の部員が確保できず、生徒が他の部活動に助っ人部員を募集して、ようやくメンバーを揃えて大会に出場していた部活動もあった。上総高校の時には、部活動を頑張る生徒よりもアルバイトを優先する生徒が多かったが、君津高校に残った園芸科では、君津高校と統合して、活気ある学校の雰囲気に刺激を受けて、園芸科の生徒も部活動を頑張るようになったと聞いている。

【 委　員 】

全県を考えた場合、都市部と郡部の１学年当たりのクラス数については、都市部では６～８学級、郡部では４～８学級で問題ないのではないか。その中で、学びのセーフティーネットを担保することができるようにしてほしい。

【 座　長 】

他に欠席者の意見はないか。

※その他の欠席者の意見

定員割れをしている学校の様子を聞くと、1 クラスの人数が 20～30 人程度ではあるが、1 クラスの人数が少ない分、一人一人にしっかりと手をかけることができ、学校も落ち着いていると聞いている。高校は学区の中学校卒業者数などをもとに学級数を設定し、募集学級数により職員の定数が決定されるので、定員割れの結果として、少人数教育が展開できる状況となっている訳であり、第３学区においては、東京、埼玉、茨城などへの私立高校への流出に加え、県内の私立への流出が多い地区であるので、柏・我孫子・鎌ケ谷地区の現状に見合った学級数を設定すべきであるとも考える。

学校の自助努力により、定められた募集学級数を超える学級数を設置して、きめ細かな教育を展開している高校があるようだが、ある程度の教員がいないと展開できないと思うので、一定規模は必要であると思う。適正規模の維持で、単位制などにより学年を越えた学びができるようになる。そうなれば、数多くの先輩をモデルとして学んでいくことで自身の進路に生かすことができる。統合を行っていくとするならば、市内に高校数が限られていると中高連携に支障が出てしまうので、高校の数が多い自治体において統合を行ってほしい。学校数が多いと施設設備の充実において、全ての学校に行き届くまで時間がかかるのではないか。統合などの機会にトイレの洋式化などをセットで行うことにより、スピード感を持って施設設備の充実と魅力化の発信を図る

ことはできないか。規模の大きな学校は、交通の便が良いところにある場合が多いため、様々な地域から生徒が集まりやすいので、幅広く交友関係を築けるし、切磋琢磨できる環境が整いやすいのではないか。

プランでは、都市部における適正規模を１学年６～８学級としているが、今後中学校卒業者数の減少が見込まれている中で、また、都市部は私立高校との生徒の取り合いという状況もあるので、最低６学級にこだわる必要はあるのか、郡部と同様の４学級にするという考えはないのか。また、統合により学区内の学級数全体を減らすことをバランスよく議論する必要があるのではないか。学校数が多い東葛地区においては、生徒数を確保するだけでなく、教員も見つけるのが大変であるため、できるなら手厚い指導を推進していきたいが、募集学級数に応じた教員の配置を県立高校では行っているので、バランスを保つのが大切ではないか。統合を検討する考え方の中に、定員割れが続き、適正規模に満たない学校であっても、その地区・地域との関係性は重視した方がよいのではないか。特に、限られた学校数しかない自治体においては、慎重に検討していく必要があるのではないか。

第３次ベビーブームが起こらなかったにも関わらず、平成 22 年に一時的に生徒数が増加した要因が良く分からないが、都市部における適正規模を超える学級数を募集していた柏南、柏陵、柏中央高校３校に共通していることは、都心のベットタウンである東葛地域においての開発が後発地域で、開発に伴い新住民が増えたことでの生徒数増であるような気がする。しかしながら、全体の現状生徒数減少は変わらない中、小規模校のメリットや課題を踏まえて考えると１学級の生徒数 40 人で学級数を減らすことが良いのか、それとも１学級の生徒数を減らして学級数を維持した方が良いのかを検討する必要があると考える。また、管内の高校間で常に問題点を共有し合う場を設け、共通部分は連携して行く必要があると考える。例えば、球技クラブ活動においては合同練習とか、あるいは音楽科の合唱・合奏でも合同練習が考えられると思う。

現状を考えると学級減は否めないとは思うが、学びの保障のために、より多くの地域に学校を残していただきたいと思う。35 人学級など少人数学級についても検討いただけると幸いである。

②　柏・我孫子・鎌ケ谷地区における魅力ある高校について

資料２「柏・我孫子・鎌ケ谷地区における魅力ある高校について」に基づき、事務局より説明

【 座　長 】

「この地区における魅力ある高校について」、質問や意見をお願いしたい。

【 委　員 】

普通科が多い中、普通科にコースを設置していくことについては理解できるが、将来の職業の予備校という印象を受ける。職業人材の育成も大切であるが、地域で何を学べるか、何を学んだ方がよいかを考えていくべきではないか。我孫子市は自然が豊かで、市域面積の３割以上が農地であり、種蒔きから収穫、そして事業者と連携した販売まで、食糧自給や自然環境保全に関する一連を学べる環境があるので、高校生には是非、活用してほしい。

【 委　員 】

前回に配付された東葛飾高校の学校案内を見ると、体験重視の授業が展開されていることがわ

かった。今後、知識を吸収する授業だけでなく、体験型の授業が重視されるのではないか。このような授業形態は他校でも行われているのか。

《 事務局 》

県内全ての高校において、「総合的な探究の時間」を設けており、探究学習を取り入れている学校が多い。この授業の中で、インターンシップを取り入れている学校も数多くある。

【 委　員 】

小中高校生の自殺が 500 人に上っている。そのうち高校生は 300 人に上る。主な理由として、進路や学業を挙げているが、生徒が希望する学校に進めるようにしていく方策を考えたり、学校におけるカウンセラーによる対応を拡充していく必要があるのではないか。

【 委　員 】

普通科を土木科などに改編することは可能か。

《 事務局 》

増えすぎた普通科高校の中に職業系専門学科を設置するよりも、普通科の中に多様なコースを設置していくことの方が実効性があると考えている。我孫子高校の教員基礎コース、我孫子東高校の福祉コース、鎌ヶ谷西高校の保育基礎コースなどにおいて、体験型の学びを行ってきた。

【 座　長 】

欠席者の意見を紹介してほしい。

《 事務局 》

普通科高校が多いこと自体は、選択する中学生にとっては悪いことではないと思う。高校受験を前にして、将来の夢を決めている生徒は多くないという印象であり、漠然と「大学(専門学校)に行きたい」「就職したい」と考えている生徒が多く、「高校に行ってから将来の夢を探したい」と話す生徒もいる。柏・我孫子・鎌ケ谷地区だけでなく、東葛飾地区全体を見ても、様々な企業・大学等があるので、地域連携（産官学）として「産業コース」の設置はどうか。これまでの職業科をさらに発展させ、産官学の連携を密にして、社会のニーズに応えるために、近隣の企業・大学等と常に連携して授業（体験学習を含む）を行ったり、起業するためのノウハウを学べたりするような、これからの社会の即戦力となる人材の育成を図るコースを設置してみてはどうか。また、高校内に独自に「会社」を作って、自分たちで経営していくことも学びの発展につながるのではないか。

【 委　員 】

どのようなコースを設置しても、学校の先生の本気度が問われている。沼南高校においては、優れた指導者により、あと一歩で甲子園に出場できるというところまで行ったが、指導者の異動により、部活動が下火になってしまった側面もある。学校の体制づくりは重要である。

【 委　員 】

我孫子高校の定員割れはショックであった。教員基礎コースを設置しても定員を確保できなくなると教員不足の課題の解消は進まないのではないか。学校では、熱意のある指導はできているのか。

【 委　員 】

我孫子高校においては、これまで勉強も部活動も頑張る生徒を育成してきた。コロナにより部活動の制限があり十分に生徒の期待に応えられない状況が続いた。本校においては、ボクシング

部に優れた指導者がおり、その先生を慕って入学してくる生徒がいる。その先生が異動しても、部活動が継続できるようにしていきたい。

【 委　員 】

進路のニーズに応じた学びを保障していくことについては、夢を育みながら、職業に繋げる学びを行っていく必要があるのではないか。そして、子どもの特徴に見合ったカリキュラムを編制していくとともに、教員の研修を充実していく必要がある。

【 委　員 】

商工会議所主催で柏の企業が参加し高校生対象の就職説明会を開催した。各高校の取組についてはどうか。

【 委　員 】

本校でも就職指導については熱心に取り組んでいるが、なかなか外にその取組が伝わっていないというのが現状である。

【 委　員 】

「総合的な探究の時間」というのは、東葛飾高校が有名なのか。困難校においても、考える力や課題解決のために対応する力を養っていくことが大切であると思う。

【 委　員 】

私立高校同士の横の連携を図ることはなかなか難しい。公立高校であれば、例えば東葛飾高校の医歯薬コースの授業に他の高校の生徒がリモートで参加することなどはできるのではないか。この協議会では職業に向けたコースの発想が多い気がするが、学び方の獲得なども積極的に推進していってはどうか。

【 座　長 】

他に欠席者の意見はないか。

《 事務局 》

普通科高校における地域連携として、農業に興味がある生徒さんに活用してもらえるよう私の方でコーディネートしていきたい。

県立の通信制の学校が少ないため、進路の選択肢を増やすためにも検討してほしい。

【 委　員 】

私たち大人の目線からではなく、アンケート調査などにより小中学生から見た高校の魅力の把握に努めてほしい。

※その他の欠席者の意見

困難校に進む生徒の中には、家庭環境が厳しく、経済的に苦しい場合が多いので、こうした生徒が習熟度別授業の実施や福祉やビジネスなど地域の特徴を生かした学びの展開など、経済的に恵まれない生徒の選択肢をより充実させて、様々なサポートを受けながら温かみのある学習環境で豊かな教育を受け、地元就職につなげられるとよい。就職先も魅力の一つなのかと思うので、アピールによって、中学生や保護者も興味を持つと思う。また、我孫子市には数多くの特別老人福祉施設が有るが、前回の協議会で我孫子東高校の福祉コース出身者の多くの生徒が地元の施設等に就職していると知った。福祉コースの学びなど、仕事に直結する資格が取得できる学校では、

ある程度の生徒数がいないと専門の教員を確保できないと思う。そして、普通科高校において様々な特性を持った生徒が様々な職種に就職するために必要な知識・技術を身につけるためには、多様な科目を開設し教えられる教員が必要なので、ある程度の学校規模がないと展開できないのではないかと思う。

改革プランの方向性を考えた場合、定員割れしている学校を統合するだけでなく、その学校を残しつつ地域連携アクティブスクールを拡充させる方向で教育活動の充実を図ることはどうか（教育課程の中に、新たなコース等を設置する等）。また、普通科高校において、多様な生徒への対応として、各高校において、自助努力により、習熟度別授業などを展開しているところもあるようだが、多様な科目を開設し教えられる教員を担保（確保）するために、ある程度の学校規模を維持していく必要があるのではないか。

基礎資料の P.3～P.8 の各校の進路状況を見ると、4 年制大学への進学率の高い高校ほとんどが 70%以上と、そうではない高校の進学率が 30%未満と落差が大きい。進学率 30%未満の高校の進路として就職が占めている割合が多いことから、高校在学中に社会人としての大切な素養や意識付けを身に付けておく必要があると考える。何が必要かと言うと、以前の会議でも発言があったが、挨拶が出来ることがまずは基本であると考える。会社においては、人とのコミュニケーションが最も大切な事で、コミュニケーションの基本が挨拶である。そして聞く力（他人の意見）、話す力（自分の考え）を養っておくと良いと思う。会社現場で離職する要因が最も多いのが、人間関係が上手く結べない事であるそうだ。仕事は楽しくても、人間関係が嫌だから離職するでは、仕事のスキルアップが遅れるし、次の就職先では飽きやすいという評価に繋がるので、コミュニケーション能力は大切である。個人差があるかと思うが、ロールプレイングなどで訓練されると良いと考える。また、我孫子市においては、農福連携について、最近、大手企業さん（我孫子では(株)帝人）や、個人の事業家さんが手掛けていらっしゃる。作業工程を企業が作り上げ、農業技術指導は地元の農家さんにお願いして、簡単な作業（草取り、収穫作業、梱包作業等）を福祉施設の方々にお願いしているようである。行政からは福祉課と農政課ら両方の支援がいただけるようである。問題は販路で、販路を決めてからの経営が望ましい。

特別支援の視点から学びを支えていただける学校が増えると良いと考える。情緒面のサポートやインクルーシブの考えを取り入れた教育などは魅力がある。さらにバリアフリーの施設であることも必要かと思う。

《 事務局 》

これまで３回にわたり御多用の中、協議会に御参加いただき感謝申し上げる。本日のテーマは、適正規模・適正配置ということで、厳しいテーマについて、皆様の御意見を伺っており、適正規模は維持しつつ、今できているきめ細かな学びや多様なニーズへの対応をいかに担保していくかということが非常に重要であると考えている。これまでいただいた御意見については、この地域の高校改革を進めていく中で、是非、参考とさせていただきながら、新たなプログラムに落とし込んでいきたいと考えている。今回で３回終了するが、これで全てが解決するわけではない。今後、このような形で皆さんに集まっていただくことは難しいと思うので、個別に私たちが御相談をさせていただきながら進めていきたいと考えている、よろしくお願いしたい。